

◆ 今月のテーマ：サイバー攻撃とは ◆

中小企業も他人事ではない！サイバー攻撃とは 被害実態と対策方法を知りましょう

2月7日（日）のNHKスペシャル「サイバーショック～狙われる日本の機密情報～」をご覧になりましたか？

日本を標的にしたサイバー攻撃が急増しており、昨年6月に発表があった日本年金機構が起こした個人情報漏えい事件（125万件）と同様の攻撃により、1,000社もの企業から、あわせて2万件もの情報が流出していた、という内容でした。日本が今まで蓄積してきた重要情報や機密情報がサイバー攻撃で根こそぎ持っていかれる可能性があり「サイバー攻撃は史上最大の富の移転である」という言葉で表現されていたことが衝撃的でした。

■ 増えるサイバー攻撃による被害

最近では、重要情報・機密情報や個人情報の流出のみならず金銭を直接的に狙った攻撃も増えています。

「ネットバンキングの不正送金」による被害で1法人が5,000万円を超える被害が発生する事案が起こったり、数百万円もの不正送金被害に遭遇したにもかかわらず、銀行が指定する適切な対応をしていなかったことで補償条件から外れてしまい、泣き寝入りするケースも見受けられます。

■ 企業の被害を防ぐ第一歩

企業にとっては死活問題に直結するサイバー攻撃による被害。連日のようにテレビや新聞等で報道されるたびに「うちは大丈夫だろうか？」と漠然と不安を感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

被害に遭遇しないために必要なことは、サイバー攻撃のパターンや被害実態を「知る」ことです。ウィルスの主な侵入経路は「メール」「攻撃者に乗っ取られたWEBサイト経由」「WEB上に表示された不正な広告経由」です。メールであれば思わず開封してしまったり、WEBサイトであれば人の興味を惹くような内容に絡めた偽サイト経由で、パソコンに乗っ取る手口もあります。

自社WEBサイトに掲載しているお問い合わせメールアドレス宛てに、関係者を装ったメールが送られ、添付ファイルを開封すると遠隔操作されてしまうプログラムが仕掛けられているというケースもあります。攻撃が心理戦になっていることを自覚し、不用意に添付ファイルを開かないなど、会社としてのルールを決めることも有効です。

◆ 今月の豆知識 ◆

～ 歩行者用信号機の鳥の鳴き声はある理由で使い分けされている ～



歩行者用信号を横断している時にカッコウやヒヨコの鳴き声を耳にしますが、あの鳴き声は方角で使い分けがされていることをご存知でしょうか？

**東西、もしくは主道路横断に向かうのがカッコウの鳴き声で、
南北、もしくは従道路横断用に向かうのがヒヨコの鳴き声と使い分けされております。**

これには理由があり、視覚障害者が向かっている場所の目印に使うために採用されたことによるものであるようです。